

知恵の樹

No. 192 2015. 5. 26

町田の図書館活動を
すすめる会

事務局：町田市森野 3-1-12 増山方
〒194-0022 FAX 042-722-1243

— 町田市立図書館長に就任して— 魅力ある図書館であり続けるために 近藤 裕一

今年の4月に町田市立図書館の館長に就任いたしました。日頃より町田市立図書館にご理解とご協力をいただきお礼申し上げます。

私は1999年4月に図書館に異動してきましたので、図書館での勤務年数は16年ということになります。希望をして図書館に異動してきたとはいえ、これほど長く図書館で勤務できるとは思っていませんでしたが、自分のやりたい仕事を長く続けることができるという恵まれた立場にいるわけですから、自らを律して館長職を務めていきたいと考えています。

いうまでもなく図書館の役割は、市民の求める資料・情報を的確に提供することで生涯学習の、また、地域の課題解決を支援するための拠点となることです。町田市立図書館がこれらの役割を果たし、時代の変化にも対応した魅力ある図書館であり続けるために、微力ではありますが力を尽くすつもりです。

図書館が魅力ある図書館であり続けるためには、多くの大切な事があると思いますが、その中でも重要なことは、やはり資料と人ということになると思います。ここ数年の資料費は残念ながら十分とはいええない状況です。その獲得にも努力していかなければなりません。しかしながら、それらの資料を収集・整理・保存し、利用者に提供している職員が、何よりも大切であると考えます。

職員一人ひとりが、町田市立図書館のサービスを支え、発展させていくのだ、という意識を職員と共有し、そのスキルアップとモチベーションの向上

に努めたいと思います。そのためには、何よりも情報の共有化や意見交換が必要です。

町田市立図書館は中央館と7館の地域館で構成され、常勤、嘱託合わせて160名を超える職員がいます。実際問題として、どうやれば効率的に意見交換をはかり、情報の共有化を図ることができるのかは、難しい点があることも事実です。それらを実現していく工夫を、副館長や担当課長とも相談しながら考えていきたいと思っています。

さらに、町田の図書館で働くことに情熱を持ち、全国から集まってきた嘱託員が、その情熱を失わず、安心して働くことのできる環境を提供していくことも大きな課題です。

図書館勤務が長いとはいえ、正直のところ館長になる前と今とでは、同じ職場にいるのに目の前の景色が少し異なっているように感じます。

とりあえず私にできることは、その景色を観察し、職員や図書館を応援して下さる市民の方の話をよく聞き、そして、町田市立図書館が魅力ある図書館であり続けるためにひとつひとつ挑戦していくことです。そして、それらを実現するためには、全職員と力を合わせることはもちろん、図書館を応援して下さる市民の方とも協力して行うことが必要であるのはいうまでもありません。



2015年5月1日

町田市立忠生図書館がオープン！

— 忠生市民センター内に誕生 —

町田市忠生市民センター オープン！

工事費 14 億円をかけ、太陽光発電を備えた忠生市民センターが新しく複合施設として誕生、去る3月7日(土)に落成式が2Fホールにて開催された。会場には大勢の来賓(議員関係・町内会・自治会・関係団体者・市議会議員・一般招待者)が、整然と着席した中、市長の挨拶(市内では初めて地域活動室を備えた人と人が交流できるセンター/より良く快適に使うための努力をしたい)で始まったが、来賓祝辞に立たれた方たちが一番多く口にしたのが、「地域図書館」の誕生を祝う言葉だった。我々待望の市立8館目の図書館は2階にあったが、まだ、てんやわんやの準備中で、空の書架をずらりと見るに留まった。

1階には、行政サービスの窓口と貸出施設(ホール(2階)・会議室(3室)・多目的室(4室/内1室は3階)・料理講習室・和室、地域社会づくりの拠点としての地域活動室)があり、3階には、乳幼児検診施設(忠生保健センター)と図書事務室があります。

忠生図書館 開館！

そして5月1日(金)、午後1時30分より図書館と忠生地域の関係者が招待されての開館記念式典がこじんまりと行われました。

図書館内にある多目的室で行われた式典は、この4月より町田市立図書館長となられた近藤新館長が挨拶に立ち建設経過報告をされたあと、教育委員会委員長代理として高橋委員が挨拶、以下の報告がなされました。

・**図書館に関する説明**(床面積:中央・金森・さるびあ に次ぐ 1230 m²、収蔵可能冊数:10万冊)。

・**地域性を活かした3つのコンセプト**(1. 子ども読書活動推進計画のモデル図書館 2. 忠生地域密着型の図書館 3. 世代を超えて交流できる図書館)について。

・**安全性として免震書架であること、利便性としてセルフ資料予約受取コーナーを設置、図書館閉館後も8時まで予約資料を借りることが可能、等**について。

そのあと、来賓として、図書館協議会委員長・山口洋、子ども読書活動推進会議委員長・増山正子が祝辞と期待を述べ、来賓によるテープカットがあり開館式は終了。一般開館時間が迫る忙しいさなか、当会より忠生図書館の職員の方たちにエー



< 忠生図書館の概要 >

- 所在地:町田市忠生 3-14-2
- 床面積:約 1,230 m²(内開架フロア 1,124 m²)
- 蔵書数:約 70,000 冊
- 図書館座席数:52 席
- 開館時間:火・水・金曜日 = 10 時～18 時、
木・土・日曜日・祝日 = 10 時～17 時
- 休館日:月曜日(祝休日は開館)、
第 2 木曜日(祝休日は翌日休館)、
年末年始、館内特別整理期間

ルを込めて、奉仕係長の和賀井ゆう子さんに花束を贈呈しました。気がつくともう多くの人が館内にいて、中でも車椅子に乗った近隣施設「ひかり療育園」の人たちが、次々と嬉しそうに入ってこられたのを目にした時、地域の図書館として様々な可能性があることに期待感が膨らみました。

検診に来る乳幼児からすぐ傍には小学校・中学校の子どもたち、センターには囲碁や将棋といったクラブに通うお年寄りまで、図書館立地条件としては最高です。忠生地域の人達だけでなく、忠生以北(図書館未設置地域)の人たちにとっても利用圏内であるこの図書館でどのような利用者サービスが展開されるのか、地域のオアシスとして親しまれる図書館になりえるのか、楽しみです。(増山)

開館記念式典に参列された図書館協議会委員のすすめる会会員の方たちに、「忠生図書館」開館にひとこと寄せていただきました。

◆ 明るくて使いやすいような図書館で、学校に挟まれているので、子どもたちもいっぱい来てくれる

ことでしょう。開館式で、忠生図書館の3つのコンセプトを伺い、きちんとコンセプトを持ってスタートした忠生図書館をこれからも見守りたいと思いました。（鈴木真佐世）

◆ コンセプトの3つ、具体的にこれまでとは違う新しい動きが出てくるといいですね。増山さんが挨拶で述べたように“市民とどのように…”ということが大切だと思います。コンセプト2・3は、当たり前といえば当たり前のこと。具体的にどのように積極策を…と、期待して見守りたいと思いました。それと、コンセプト1「子ども読書推進計画のモデル図書館」と位置付けたことに注目していただきたいと思います。今後の情報、ほしいですね。（久保礼子）

◆ おはなし会、ブックトーク、紙芝居と盛り沢山なオープニングイベントも準備されていて、利用者の皆さんにも喜ばれたと思います。多目的室も早速大人向けおはなし会や紙芝居で使われていましたが、忠生図書館が多目的スペースを確保できたことはとても大切なことだと思います。市民とともに図書館の活動をする上ではこのスペースはなくてはなりません。人員のことを考えるとご苦労も多いとは思いますが、市民とともに成長する図書館となることを心から願っています。（清水陽子）

◆ 第一印象はまず“明るい”、これは窓面を高くして光を多く取り入れた結果だそうだが、何より“奇をてらった所がない”ことだ。今の時代、普通に心休まる図書館が普通にあることが嬉しい。迎えて下さった図書館職員の方々のキラキラした目が力を与えてくれる。

2、30年程前、市民センター内にある小さな図書室を何度か楽しく利用させて頂いたことのある



私にとって、当時の思い出がある場所でもあるので、長い時を経て、こんなに立派になって、と感慨深い。また昨今の図書館を取り巻く事情と合わせて考えると市民センター併設とはいえ、この開館は一市民としても誇らしい。

それと、震災を踏まえて近隣自治体では初となる耐震書架を配置した点にも強く関心を持っていたので、当日、職員の方にいち早く質問してみたが、見た目は何ら変わらない書架であり、底部分の見えない箇所に秘密があるようだった。利用者も職員も安全第一、これがまた嬉しい。

開館時には67,000冊の蔵書があり、近く70,000冊になる予定だそう。児童書に重く蔵書構築され近くの小中学校、保育所等との連携や地域に密着した図書館として長く愛されていく図書館であることには間違いのないだろう。今後、行政と市民との円滑な関係にも期待したい。ここに開館に向けてシステム更新とも重なり多くの職員の方々のご尽力に利用者の一人として感謝申し上げたいと思う。（多田美恵子）

◆ 忠生図書館の開館、おめでとうございます。これでまた町田の図書館空白地域が減り、市民にとって身近な図書館が増えたことは大変喜ばしいと思います。

耐震設計の書架やコンパクトながら明るい館内、児童サービスや学校支援にも力を入れていくとの説明に大いに期待したいと思います。

新しくいい図書館ですが、1階のエントランスからは、残念ながらそこに図書館があることが感じられませんでした。あれが1階ならもっと子ども達が入りやすいのにと思いました。市民にとっては、市民部の窓口より図書館のカウンターの方がずっと利用回数が多いはず。出来てしまったからには仕方ないですが、今後の図書館は、是非1階に設置して欲しいものです。（山口 洋）



東北3つの図書館見学

・紫波町図書館(岩手) ・一関市立花泉図書館(岩手) ・東松島市立図書館(宮城県)

去る3/14(土).15.16、福島の人(図書館員)の案内で静岡の友人2人と共に、1年に1度の恒例の図書館廻りをしてきました。

紙面の都合で今号は2つの図書館の特徴のみをご紹介します。

▶紫波町図書館(写真右)は、紫波中央駅前のエコハウス「オールドプラザ」の中央棟(情報交流館)1階(2F=交流館)に入っており(東棟1F=カフェ・2F=子育て応援センター/西棟1F=産直、居酒屋・2F=学習塾)、同じ敷地に建つマルシェ(紫波の農畜産物・加工品等のテナントが入っている市場)ともコラボした図書館サービスを展開している①。特に子育て支援や障害児サポート施設へのサービス、地場産業の資料提供等に力を入れており、食・文化・芸術の全てがここに来ると満喫できる。



←昨年9月開館した一関市立花泉図書館は、太陽光発電、地中熱ヒートポンプによる床暖房、LED照明器具、ペアガラスサッシを使用し、地元産材をふんだんに使った木の香りがするこれまたエコ図書館で、館内には清浄な温もりが漂っていた。

ここも、地場産業を支援しており、4酒造元の一升瓶が並べられているのには驚いた②。「日本酒クイズ」の用紙に回答するとエコバックがもらえるという。

東北の図書館は、震災記録を収集・永久に保存する・公開し後世に伝えるという図書館共同キャンペーンを実施しており、どこの図書館を廻っても震災関連資料コーナーが目立つところにあり、地域住民の生活をサポートする様々なサービスと資料が豊富にそろえられている。(増山)

『図書館研究三多摩』第6,7号の斡旋について

三多摩図書館研究所発行の『図書館研究三多摩』第6,7号は、調布市立図書館を特集している。なぜ調布市立図書館なのかといえば、20年以上前に財団委託が提案されたが、多摩地区を中心とする市民・職員の反対運動の広がりにより、直営を堅持することができた。その後、自己変革を遂げながら、現在では職員体制を始め、見事な図書館運営を実践している。調布市立図書館の実践については、町田市立図書館も大いに学ぶべき点があると思う。ぜひ読んで参考にして欲しい。(手)

『図書館研究三多摩』第6,7号は、三多摩図書館研究所が企画した連続学習会の記録である。

☆本体価格：6号 500円・7号 700円
(一括購入：1,000円)

第6号(2014年3月) 500円(本体価格)

特集 調布市の図書館(上)

座間直壯「委託問題の背景とその後の図書館運営」
小池信彦「調布市立図書館の歩みとこれから」
五十嵐花織「レファレンスサービスの現状と課題」
砂川雄一「図書館に関する覚え書き」

第7号(2015年3月) 700円(本体価格)

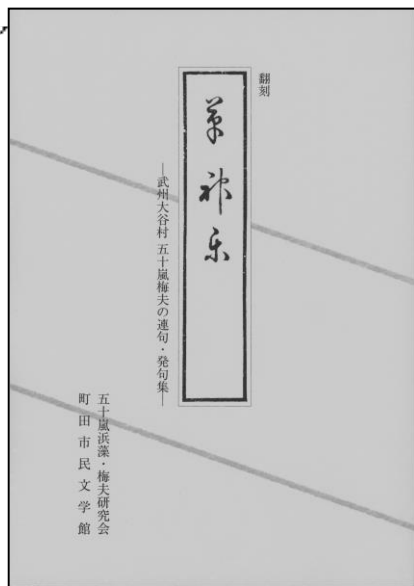
特集 調布市の図書館(下)

山口源治郎「多摩地域の図書館の成果と課題」
戸室幸治「調布市立図書館の活動から
図書館運営の基本を考える」
山口真理子・木住野正子
「調布市立図書館の職員体制」
返田玲子「調布市立図書館のハンディキャップサービス」
黒沢克朗「調布市立図書館の児童サービス」

3月末に、市民文学館から江戸時代の俳諧文献『翻刻 草神楽—武州大谷村五十嵐梅夫の連句・発句集』が刊行された。文学館で市民研究員として活動する「五十嵐浜藻(はまも)・梅夫(ばいふ)研究会」による、2年半に及ぶ調査研究・翻刻活動の成果である。

俳諧(連句)とは、中世の貴族による連歌が次第に武士や町人に広まり、江戸前期に松尾芭蕉によって大成された付け合い文芸。5・7・5 の長句と 7・7 の短句を、別々の人間が交互に付け合い、36句(歌仙)や100句(百韻)などの1巻としてまとめ上げる歌詠み遊びで、現在インターネット上などでも盛んに行われている。「花を持たせる」「挙句の果て」「付かず離れず」「景気付け」などの慣用語は俳諧から生まれた言葉であり、連句のはじめの1句が「発句」と呼ばれ現在の俳句のもとになった。個を主体とする西欧近代の文学理念とは異なり、座に集う人々が共同で1巻の詩篇を創り上げるわが国固有の文芸形式であり、「座の文芸」「共生の文学」などと呼ばれ近年海外でも注目されつつある。

『草神楽』は、武州大谷村(現町田市南大谷)の名主で俳人の五十嵐梅夫が、娘の浜藻と共に行った6年間に及ぶ西国行脚の途次、各地の俳人と巻いた109巻の連句と、全国の知友俳人518人の発句838句を収めた近世俳諧史上特筆すべき文献である。梅夫・浜藻父娘は、小林一茶や夏目成美、井上士朗といった当代一流の俳人たちと親しく交わり、遠く長崎にまで至る西国行脚も、おそらく数年前に同じ道程を辿った一茶の紹介によるものと思われる。



『草神楽』の版本は、富山県立図書館や奈良の天理大学図書館などごく限られた機関にのみ所蔵され、さらにくずし字で書かれているために誰もが手軽に読むことができたものではなかった。町田の貴重な郷土史料であり、近世俳諧史上でも重要な『草神楽』が、市民自身の手で翻刻されたことの意義は大きい。

翻刻の過程では、従来知られていなかった数々の事実が明らかになった。まず、これまで行脚の年数は4年とされていたが、

出立と帰着の時期が記された文献の発見により6年に及ぶことが明らかとなった。また、父娘が行脚の途中、当時の高名な漢詩人で儒学者でもあった菅茶山(頼山陽の師)を広島に訪ね、茶山から浜藻の才を称える詩を贈られていたことも分かった。さらに『草神楽』と同時に刊行された浜藻編『八重山吹』(2012年に文学館から翻刻刊行)の版本が、これまで知られていた富山県立図書館、岡山市立図書館のほかに、オランダのライデン大学のシーボルト日本書籍コレクションの中にも現存することが、国文学研究資料館の調査で明らかになった。

市民研究員の皆さんによる月3回の定例会は、しばしば喧々諤々の議論を重ねながら、1字1字を現代の文字に確定していく気の遠くなるような作業であった。それは、2百年余りに町田に生きた稀有な俳人の生涯と業績を、歴史の闇の彼方から再び蘇らせる作業でもあった。

こうした地道で目立たぬ営みに支えられて、はじめて地域の図書館の豊かな資料提供も保証されるのである。

本書は、1部1000円で文学館と市役所1階の市政情報課で販売しています。郵送での購入も可。文学館(TEL042-739-3420)にお問合せください。

「第4回 まちだとしょかん子どもまつり」を終えて

<期間:2015年3月25日(水)~29日(日)>

実行委員長 清水陽子

子どもまつり実行委員会主催の市民協働の標記事業は4月21日(火)に反省会が行われ幕を閉じた。

今回でこの催しも4回目になるが、市民協働の催しを継続させたい、子どもたちに本の世界の楽しさを感じて欲しい、市民がより積極的に図書館を活用する可能性を模索したい、そんな思いを抱きながらまつりに取り組んできた。

今回は14団体が参加し町田市立図書館全館と市民文学館を会場として、50のプログラムを実施し、1409人が参加してくださった。

今回も応募した団体が実行委員会を立ち上げ、中央図書館児童担当が事務局となり各地域間の担当者とともに昨年8月28日から4回の実行委員会、5回のコアスタッフ打ち合わせを経て3月の子どもまつりに向けて活動を続けた。今回は初めて普段子どもと関わりなく活動している歴史を研究する2つの団体が子どもまつりのために展示やおはなしを用意していただき、参加者からも大変好評だった。このことは子どもまつりがより広範な団体の参加を期待する上で新しい展開と言える。

各団体はそれぞれの団体が主催する企画を準備する一方、実行委員会として企画や展示にも取り組んだ。今回の実行委員会企画は昨年度に引き続き、「絵本で国際交流」(市内の大学に通う留学生や朝鮮学校の児童や先生に母国の絵本や文化、遊びの紹介してもらうことで子どもたちと交流する)と「ビブリオバトル」の2つの企画を実施した。両企画とも参加者からはとても楽しかったという声が多

かったが、大人の参加が多く子どもたちにこそもっと体験して欲しい企画だったという声もいただいた。

「絵本で国際交流」では町田国際交流センターに留学生を紹介していただいているが、打ち合わせに図書館も加わることによって、図書館と交流センターとのパイプも繋がったように思えた。

また、「ビブリオバトル」ではバトラーの募集や観覧のお誘いを図書館から全中学校に電話連絡を入れるなど、図書館の負担は甚大であったと思うが、図書館とビブリオバトルについて学び合いたいという申し出が中学校からあったことは嬉しい報告だ。

催しの他に実行委員会ではプログラム作りや配布、館内の展示を行った。展示はお勧めの本と各団体の活動を広報できるものとしたが、回を重ね各団体とも慣れてきて短時間のうちに見ごたえのある展示ができあがり、利用者からの評判も上々だった。今回は展示を行う中で大壁面いっぱいに予定表を作り、催しのチラシを入れるポケット付きのポスターを予定表に貼るというのを試みた(7p)。予定表を貼ることにより町田市全体で祭りがおこなわれていることを知らせ、奥の児童カウンターまで行かなくてもチラシを手にとることが出来ることを狙った。

それと同時に、町田市内で本やお話と出会える場所を地図に落として掲示し、子どもまつりから情報を発信したいという意見が出、実行委員会として今回から少しずつ実態を把握していこうと話合われた。今回は図書館がアンケート調査を実施していたので、図書館が把握した資料を基に移動図書館の拠点、一般開放している文庫、図書館を地図に落としたものを図書館が作って掲示した。

子どもまつりに参集した団体がまつりを運営する中で気づいた問題について取り組んでいくということは、短い期間で結果を出すのは難しいが、意義のあることだと思うので今後も続けて欲しい。



まつりの5日間は天候にはまずまず恵まれた。しかし春休み中の土日はわずか1回、しかも桜の見ごろと重なっているため、普段の土日より全体的に図書館の来館者は少な目で、子どもたちが図書館にどっと押しかけるといった状況は残念ながら見られなかった。それでも前回より10%増しの入場者であった。また、地域館では人手が足りず、土日に催しをすること自体が難しいということも挙げられていたが、利用者の多い土日に催しをする意味もあるので、やりかたを模索する必要があると思う。



いくつかの企画でとったアンケートによると、少しずつ子どもまつりが認知されリピーターも見られるが、一番来て欲しい層(普段のおはなし会でも参加の少ない小学生や中高生)をまだまだ取り込めていないことがわかった。

反省会では各団体から、参加者はチラシを見て図書館に足を運んだという人もいたという団体がある一方、館内を声掛けして回らなければならなかったという団体もあり、広報については方法をもう一度見直す必要も感じられた。また、今回は図書館が2月末から休館したことも、事前の宣伝や参加団体のリハーサルなどに影響がありご苦労された団体もあった。

地域館では館内のかわいい飾り付けや館独自のプログラムを作るなどして盛り上げていただいた。おはなし会は、図書館とボランティアによるおはなし会と参加団体が単独で開催するおはなしかいの2つの形態が存在した。初めて団体として参加さ

れた団体は、地域館の職員と打ち合わせをしたりアドバイスを受けてたりでき、子どもまつりを通して勉強ができたと報告されていた。おはなし会以外にも映画会、ブックトーク、紙芝居と様々な取り組みがなされ常連さん以外の子どもたちの顔も見受けられたと報告があった。子どもたちには自分で歩いていける図書館が自分の図書館なので、マイ図書館のおまつりとして近隣の子どもたちに認知してもらえるように、実行委員会でも取り組む必要性を感じた。

また、子どもまつりは「子ども読書活動推進計画」にも「各イベントでの『子ども読書活動』の推進の取組み」として位置づけられているにもかかわらず、予算はついておらず、全体チラシの印刷などは図書館がするものの、各催しにかかった経費はすべて団体もちになっている。ピブリオバトルのファシリテーターに支払った交通費は「町田の図書館活動をすすめる会」が拠出したものだ。1, 2回の時は参加団体がかった費用を分担したが、そのことが参加への障害になる団体もあることから、前回から分担金はやめたが、どうしても必要なものは職員のポケットマネーや特定の団体で負担しているのが現状だ。毎年、図書館でも予算要求はされているが、財政難という理由で予算の獲得は難しい。リサイクル本を利用したバザーなど資金作りも検討する必要がある。

最後に職員にとっても様々な局面で困難さがかかえながら、システム更改やアンケート調査も並行しておこなっていた事務局の中央図書館児童担当の方たちの頑張りにも心からの感謝を申し上げたい。

今後の課題としては、市民協働のイベントとして予算や開催時期も含めた継続しやすい運営方法を考えていかなければならないこと、参加者を増やすために広報の仕方をさらに検討すること、実施団体として参加する団体も広げ、図書館の様々な機能をアピールできるまつりにしていくことなどがあげられた。課題も少なくない子どもまつりだが市民協働でこそその可能性も感じられるまつりであり、是非進化して欲しいまつりである。次回のまつりには皆さま是非様々な形でのご参加・ご協力を！



ひろば

定例会 4/23(木)

- ・16:30～191号刷(伊・手・丸・桃、他)
- ・18:00～20:00 中央図書館ホール
- 出席: 石井、市川、伊藤、久保、近藤、清水、鈴木真、多田、増山、丸岡、桃沢、守谷、山口、渡辺彰

●町田市立新図書館長の近藤さん(会員)よりご挨拶/「すすめる会にも、できるだけ出席したい」

●2014年度/会計・活動報告

- ・会計報告(石井/別紙にて配布)
- 会計監査(守谷)・・・手持ち金は預金通帳へ
- ・活動報告/会計収支計算表に記載

●2015年度

☆世話人が決まりました

- ・代表:手嶋孝典/副代表(&会報):山口洋
- ・事務局(&会報担当):増山正子
- ・庶務:石井一郎/会計:丸岡和代
- ・会計監査:守谷信二・渡辺彰
- ・会議室(&印刷室)予約:吉岡一憲
- ・ML管理:鈴木薫
- ・図書館友の会全国連絡会ML情報
:手嶋・山口・増山
- ・定例会記録:囑託労組担当者

☆活動計画・・・5月の定例会で話し合う

- ・講演会・図書館見学会・その他

☆定例会・・・中央館が4月より機械管理になったため、閉館後は入館が難しくなった。そのため開館時間内に会議をすることを検討。

◇ 6月～9月迄の定例会日 第4火曜日
6/23(火)、7/28(火)、8/25(火)、9/29(火)
会報・印刷室・・・16:00～18:00
会議・中集会室・・・(17:00)18:00～19:45

☆その他

- ・会報送付について・・・パソコン環境にある人には、郵送ではなくメール添付を検討
- ・会費未納者をチェック、催促をする

●忠生図書館開館について(p2)

- ・すすめる会から職員にお花(オアシス)を贈呈

●図書館協議会報告(4/23)

新館長あいさつ/人事異動報告/文学館報告/子どもまつりの報告/学校図書館法改正(4/1実施)、町田市の第三次子ども読書推進計画の

2015年度第3回(通算97回)

文学館(主催)で楽しむ おとなのためのおはなし会

6月18日(木)10:30～11:30

町田市民文学館 2F大会議室

プログラム

- ・町田ゆかりの作家:「森村誠一」菊池とも子
 - ・ふしぎな玉(韓国の昔話) 前田久美子
 - ・化かされた三人(町田の民話) 砂川とき江
 - ・賢い姫君(メアリー・ド・モーガン作) 西村敦子
- 直接会場へどうぞ! 保育有

問合せ:町田市民文学館 ☎042-739-3420

中には、司書を置くことを謳っていない。先生からは学校司書が必要だという声は上がってこない。地域のボランティアで間に合わせる感あり。

●図書館子どもまつりの反省(p6)

●その他

- ・「読んだらノート」について(新星舎印刷より発売)
- ・図友連の総会・・・5/25(月)(山口出席)
- ・野津田公園のセイタカアワダチソウ引っこ抜き大作戦/草地を保全、大勢に現状を知ってもらう
- ・図書館協議会委員(館長より)・・・7月で第五期が終了、8月から新メンバーに。各団体に委員の推薦願いを出す

●お知らせ

- ・「ひらこう! 19th 学校図書館」/6/6(土)10:30～16:30 日本図書館協会2F研修室 500円/記念講演「教育改革の中の学校図書館」山口源治郎氏(東京学芸大教授)・問題提起「学校司書の専門性とは」永井悦重氏(山陽学園大特任准教授)・各地の報告・意見交流/問合せ:学校図書館を考える全国連絡会事務局 Tel&fax 03-3816-5271

・講演会「公共サービス基本法・公契約条例から『公共の規律』の仕組みをつくる2」/講師:上林陽治氏(地方自治総合研究所) 6/8(月)13:15～14:45/日本図書館協会2階 研修室(地下鉄茅場町下車5分)資料代300円/主催:東京の図書館をもっとよくする会 大澤 042(467)4716・池沢 042(765)3382

<https://www.facebook.com/mottolibraries>

あとがき・・・NPO まちだ語り手の会は30年間の活動記録を冊子にまとめ、この5月末に刊行する。そのため編纂作業で、毎月出し続け359号に達した会報「いまむかし」を、改めて読みなおしてみた。あつという間に過ぎ去った30年だが、膨大な資料の中には、凝縮した時間があり長い活動の歴史を感じ取ることができた。電子データが持てはやされる時代になったが、少し変色した紙の記録は、電子データでは味わえないその当時の雰囲気まで運んでくれるから不思議だ。(M⁺)